

Daily Report (号外)

～3月の米雇用統計について～

結果概要

米国労働省が4月1日に発表した3月の雇用統計は、非農業部門雇用者数が前月比+43.1万人と市場予想(前月+49.0万人)を下回る結果となりました。前月分は+75.0万人(速報値+67.8万人)に上方修正されました。

業種別では、娯楽・接客業が前月比+11.2万人(前月+15.4万人)、専門・ビジネスサービス業が同+10.2万人(同+10.5万人)、教育・ヘルスケア業が同+5.3万人(同+11.7万人)と前月から減速したものの安定した雇用回復が見られました。

失業率は3.6%と前月(3.8%)から改善しました。

市場反応

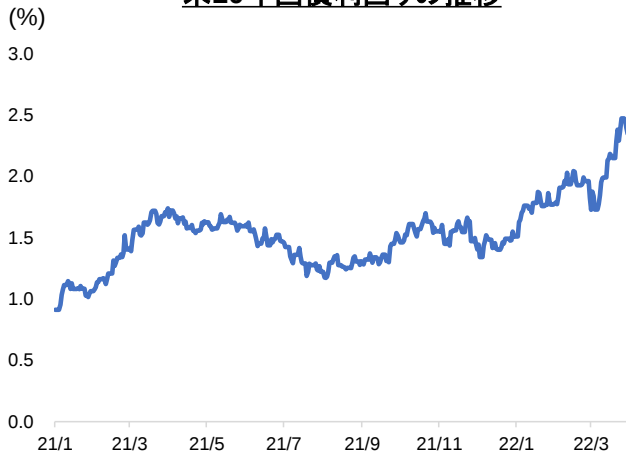
1日の米国株式市場はNYダウ、S&P500指数、ナスダック 総合指数が揃って上昇しました。雇用統計の結果、堅調な雇用回復が続いていると判断されたことを背景にNYダウは前日比+0.40%、S&P500指数は同+0.34%、ナスダック 総合指数は同+0.29%となりました。

米国債券市場は好調な労働市場を背景にFRBの金融引締め観測が強まったことから売られ、10年国債利回りは前日比+0.04%の2.38%程度で引けました。

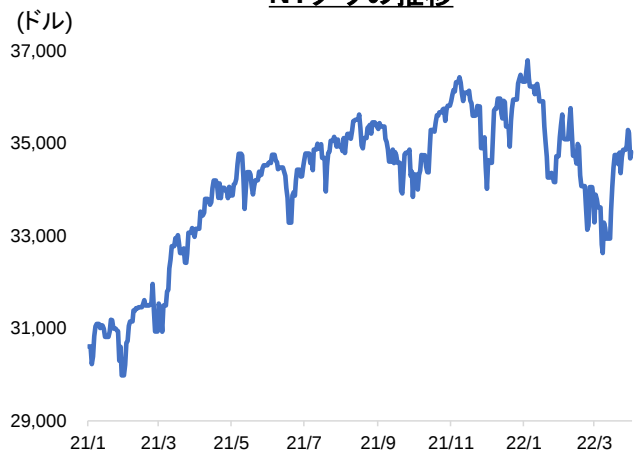
米ドル/円は金融引締め観測が強まる米国と、指値オペを実行し金利上昇を抑制する日本の金融政策の方向性の違いから円売りドル買いが先行したことで、円安ドル高が進行しました。

原油先物市場は、IEA(国際エネルギー機関)が石油備蓄を協調放出する方針を決定したことを受け、原油需給の逼迫が和らぐとの見方から売りが強まりWTI原油先物5月限は前日比▲1.01%の1バレル=99.27ドルとなりました。

米10年国債利回りの推移



NYダウの推移



(期間) 2021/1/1～2022/4/1 (出所) Bloomberg

評価・今後の見通し

今月の雇用統計では非農業部門雇用者数が市場予想を下回ったものの、失業率の低下や労働参加率の上昇など、労働市場の回復が堅調なペースで続いていることを表す結果となりました。

インフレ率が依然高止まりする中、これらの結果を背景にFRBはより積極的な金融政策の実施に動くとみられており、市場では5月のFOMCで0.5%の利上げを織り込む動きが強まっています。

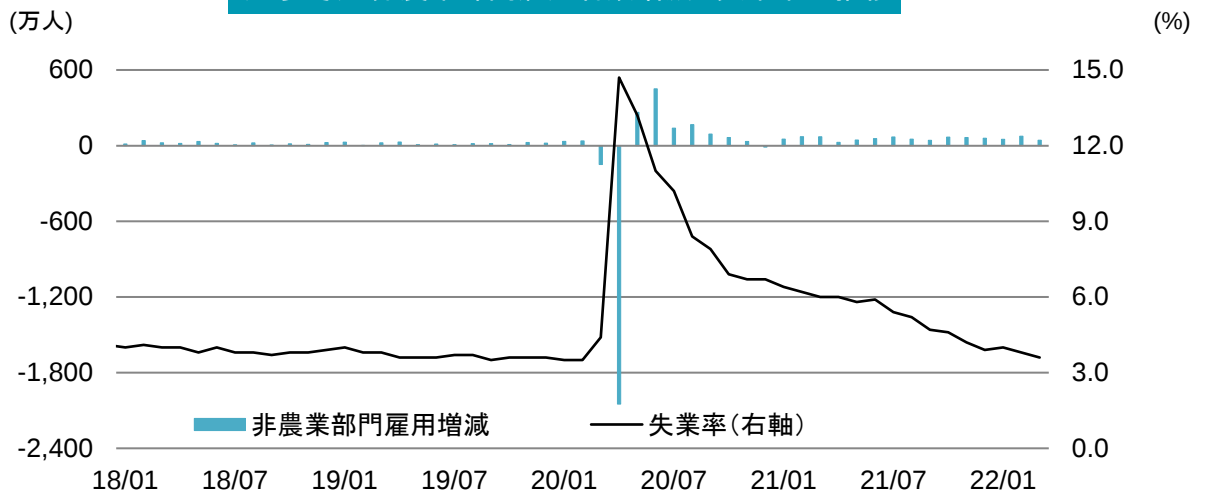
一方で足元では先行きの景気不透明感から一部の年限の短い金利が長期金利を上回る「逆イールド」が出現するなど、景気後退懸念が燦っており、今後FRBはより慎重な舵取りが求められると考えます。引続き、ウクライナ問題やFRBの政策運営等を背景に株式市場はボラティリティの高い状況が続くと予想しますが、目先は4月6日発表の3月FOMC議事録、4月12日発表の米消費者物価指数(CPI)に注目します。

(ご参考) 主要業種別雇用者数増減(前月比・万人)

出所: 米国労働省

	21/10	21/11	21/12	22/1	22/2	22/3
非農業部門	67.7	64.7	58.8	50.4	75.0	43.1
鉱工業部門	8.3	9.9	9.3	3.2	10.2	6.0
建設業	2.8	4.7	4.4	0.6	5.7	1.9
製造業	5.3	4.8	4.1	2.6	3.8	3.8
資源・鉱業	0.2	0.4	0.8	0.0	0.7	0.3
サービス部門	61.1	52.8	46.8	46.0	63.7	36.6
卸売業	1.2	1.5	1.9	1.3	2.0	0.7
小売業	4.3	2.0	3.8	12.1	11.0	4.9
輸送・倉庫業	5.1	3.7	2.2	5.3	7.0	-0.1
情報	1.2	1.8	0.9	0.5	-0.5	1.6
金融	2.3	3.2	1.4	0.2	3.0	1.6
専門・ビジネスサービス業	23.6	11.1	9.1	8.8	10.5	10.2
人材派遣業	15.3	1.1	4.1	2.8	4.3	0.5
教育・ヘルスケア業	6.8	6.9	6.5	3.3	11.7	5.3
娯楽・接客業	14.1	19.1	18.6	13.8	15.4	11.2
その他	-12.8	2.4	-1.7	-2.1	-0.7	0.7
政府部門	-1.7	2.0	2.7	1.2	1.1	0.5
失業率(%)	4.6	4.2	3.9	4.0	3.8	3.6
平均時給(前年比、%)	5.4	5.3	4.9	5.4	5.2	5.6

(ご参考) 非農業部門雇用者数増減と失業率の推移



(期間)2018年1月～2022年3月 (出所)Bloomberg